



# NEWSLETTER

～ 水を守り 湖を救う ～

公益財団法人 国際湖沼環境委員会(ILEC)  
本ニュースレターには、英語版もございます。

## 世界湖沼の日 次世代育成事業 2025

ILECは、滋賀県より委託を受け、「世界湖沼の日(World Lake Day)」の理念を広く共有し、次世代の湖沼保全リーダーを育成することを目的として、2025年度に2つの主要プログラムを実施しました。

### 1. 高校生が世界へ挑戦

～ WLC20 (オーストラリア・ブリスベン) 派遣 ～

選考を経て選ばれた5名の高校生が、7月にオーストラリア・ブリスベンで開催された第20回世界湖沼会議(WLC20)に参加しました。ユースセッションでの英語発表、ポスター展示、フィールドトリップ、海外ユースとの交流など、多彩な国際経験を積み、大きく成長する機会となりました。

(活動の詳細はニュースレター臨時号をご覧ください! <https://ilec.or.jp/pubs/newsletter/>)

### 2. 国内外のユース27名が参加

～ インターナショナルユースワークショップ 開催 ～

11月1日(土)、米原市コンベンションホールにて“世界のみんなと考える湖のこと”をテーマに、インターナショナルユースワークショップを開催しました。

滋賀県からは、高校生14名(彦根東・膳所・立命館守山・水口・彦根工業)が参加し、海外4か国(マレーシア・インドネシア・ウガンダ・ケニア)から13名がオンラインで参加しました。

#### 【発表&報告】

滋賀県琵琶湖保全再生課の山本課長より「滋賀県と世界湖沼の日」の取組が紹介された後、WLC20に参加した高校生4名が国際会議での学びと経験を報告しました。

#### 【国際ディスカッション】

後半では、国内外のユースの活動発表の後、混成チームによる国際ディスカッションを実施しました。

テーマは以下の2点です。

1. 大人になったとき、どんな湖であってほしいか
2. 世界湖沼の日をきっかけにどんな行動ができるか

議論の結果、次のようなユース提言がまとめられました。



## <ユース提言>

「世界湖沼の日」を契機に、私たちは…

- 飲み水として活用できる湖を守るために：
  - ゴミ拾い競争の実施
  - 水の浄化フィルターの導入
  - 節水の徹底
- 湖の水をきれいにする行動として：
  - 水筒の使用
  - 買い物袋の持参
  - プラスチックごみを減らすためのリサイクル活動
  - SNSを活用した意識向上キャンペーン
- 地域社会に向けた具体的な行動として：
  - ゴミ拾い
  - 環境保全の地域活動への参加
  - 動植物の保護への関心向上



これらの提言は、次回の世界湖沼会議ユースセッションや、滋賀県内の環境活動にも活かされる予定です。

## 3. 参加者の声 - Voices from Participants

### 高校生 (滋賀)



世界の若者と同じテーマで語り合い、琵琶湖の課題が世界とつながっていることを実感した。

### 高校生 (滋賀)



英語で意見を伝えるのは緊張したけれど、海外のユースが励ましてくれて心強かった。

### 海外ユース (マレーシア)



滋賀の高校生の発表はとても分かりやすく、情熱を感じた。

### 海外ユース (ウガンダ)



水の問題は国を超えて共通していると実感した。今日のつながりを大切にしたい。

### 海外ユース (インドネシア)



多様な参加者と活発な議論ができた。各国の若者と意見を交換でき、主催者のサポートも素晴らしかった。

### 海外ユース (ケニア)



今回は海外の学生も現地参加できる支援があるとさらに良い。次の開催が楽しみ。

本事業を通じて、高校生は

- 国際社会の一員としての視野
- 英語で自分の意見を発信する力
- 地域と世界をつなげて考える姿勢
- 国際的なユースネットワーク

を育むことができました。

「学ぶ → つながる → 行動する」という流れが生まれ、若者たちは自らの言葉で湖の未来を語り、行動へと踏み出しています。また、より質の高い議論やプレゼンテーションに挑戦したいという向上心も見られました。

今後も ILEC は、若い世代が湖の未来をつくる担い手となるよう、次世代育成事業に力を注いでいきます。



# 滋賀経済同友会「MLGs<sup>※1</sup>と私たち」部会

～滋賀から世界への発信、びわ湖という宝を未来へ～

## 滋賀県の企業や団体で構成される滋賀経済同友会でも 「世界湖沼の日」に関するイベントが開催されました！

滋賀経済同友会は7月29日(火)、立命館守山中学校・高等学校において「World Lake Day プレフォーラム 2025 ～びわ湖から世界へ、水をめぐる未来共創～」を開催しました。

本フォーラムの目的は8月27日の「世界湖沼の日」を前に、その国際的意義を若者と企業経営者が共に学び行動へ移すことです。

第一部では、ILECからの「世界湖沼の日」制定の背景や地球上における淡水の希少性についての説明に加え、世界湖沼会議に参加した高校生2名から国際会議への参加体験や、今後への思いが熱く語られました。また、DAS LAB(ダス・ラボ)<sup>※2</sup>や(株)日吉より水にまつわる思いや取組、先進的な実践事例等が紹介されました。

続く第二部では、同高の卒業生が在学中に制作した「MLGsカルタ」や「ふりかけプロジェクト」を紹介した後、世代や立場を超えた参加者による湖と人との関わりや未来への課題についての熱心な議論が交わされました。

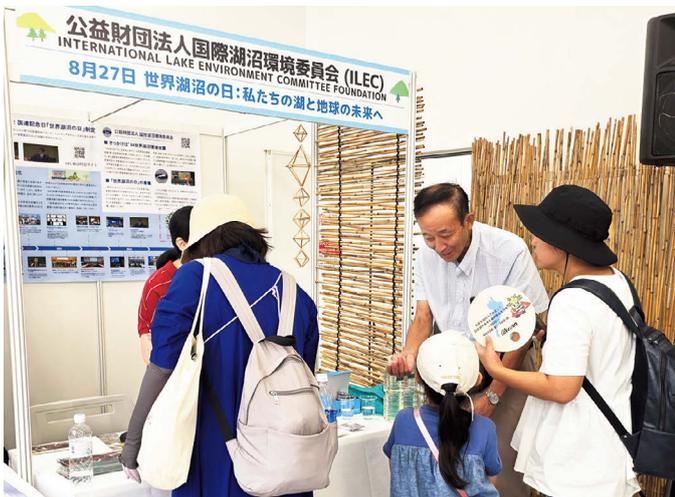


※1 MLGs：琵琶湖版のSDGsとして、2030年に向けた環境、経済、社会活動をつなぐ健全な循環の構築を目指し、2021年7月1日に地域で13のゴールが設定されたもの  
※2 DAS LAB(ダス・ラボ)：データ・アート&サイエンスを活用し、企業・大学・行政・地域住民が協働して、その土地ならではの未来を共創・実装していく取組

## EXPO 2025 大阪・関西万博で「世界湖沼の日」をPR

8月2日(土)、関西パビリオンで行われた関西広域連合主催の「いのち育む“水”のつながりWEEK」に出展しました。ブースでは、ポスターや最新パンフレット、映像を使って、ILECの活動や「世界湖沼の日」が制定されるまでの道のりを紹介するとともに、琵琶湖の水と井戸水を使った簡易水質検査の体験会を実施しました。来場者は水質検査に特に関心を示し、体験を通して湖沼環境への理解を深めていました。

さらに、9月19日(金)～21日(日)には、滋賀県琵琶湖保全再生課と合同でフューチャーライフヴィレッジに出展しました。期間中には、駐日スロベニア大使や同国クラン市長もブースを訪れ、「ワールド・レイク・デイ！」の掛け声とともに記念撮影を行う場面もありました。国内外に向け、湖沼の重要性を伝えるとともに「世界湖沼の日」の認知向上を図る貴重な機会となりました。



関西広域連合



スロベニアのクラン市長と

# ILECの活動概要 (2025年度)



- **4月 24～5月1日** 第20回世界湖沼会議準備会合を実施  
(オーストラリア・ブリスベン／キャンベラ)  
29日 松井三郎評議員が「瑞宝中綬章」を受章
  
- **6月**
  - 3日 関西みらい銀行様よりSDGs定期預金の寄付を拝受
  - 6日 近畿労働金庫様より社会貢献預金「笑顔プラス」の寄付を拝受
  - 23日 **W**ILEC国際ウェビナー「気候変動が湖やその流域に与える影響：琵琶湖・淀川流域、そして世界の視点からの評価と観察」を開催 **【イベント①】**
  
- **7月 21～25日** 第20回世界湖沼会議 (WLC20) を開催 (オーストラリア・ブリスベン)
  - 21日 **H**WLC20コースセッション「Youth in Action for Lakes」を開催 (オーストラリア・ブリスベン)
  - 21日 **H**WLC20国際コロキウム「A Global Dialogue on Lakes, Rivers and Communities– And a Local Perspective from Australian Waterscapes in a Changing World」を開催 (オーストラリア・ブリスベン)
  - 22日 ILEC科学委員会総会を実施 (オーストラリア・ブリスベン)
  - 29日 滋賀経済同友会主催「World Lake Day プレフォーラム2025～びわ湖から世界へ、水をめぐる未来共創～」に登壇 (守山市)
  
- **8月**
  - 2日 EXPO 2025 大阪・関西万博で「世界湖沼の日」をPR (大阪市)
  - 27日 MLGsみんなのBIWAKO会議／COP 4 にブースを出展・参加 (大津市)
  
- **9月**
  - 6～15日 マナグア湖における新プロジェクトの事前調査を実施 (ニカラグア・マナグア市)
  - 19～21日 EXPO 2025 大阪・関西万博で「世界湖沼の日」をPR (大阪市)
  - 29日 近畿労働金庫滋賀地区推進会議で講演「持続可能な湖沼管理に向けて」(草津市)
  
- **10月**
  - 1日 インドネシア政府主催「世界湖沼の日」記念式典に中村科学アドバイザーが登壇 (インドネシア・ジャカルタ)
  - 25日 第6回びわ湖まるっと親子セミナー「地域(目田川)から世界へ! ++つなげるエコ活++」を開催 (守山市) **【イベント②】**
  
- **11月**
  - 1日 **H**インターナショナルコースワークショップ  
～世界のみならず考える湖のこと～を開催 (米原市)
  - 15日 びわ博フェス2025で「世界湖沼の日」をPR (草津市)
  
- **12月**
  - 11日 中村科学アドバイザーが「滋賀県環境保全功労者知事表彰」を受賞

## 2026年

- **1月 20～24日** インドネシアにおける湖沼水質改善のための技術協力を実施 (草津市／大津市)  
**【イベント③】**
  - 10～31日 東部アフリカにおけるILBM主流化にかかる情報収集・確認調査を実施 (タンザニア／ケニア)
  
- **2月**
  - 6日 琵琶湖とともに生きる未来を考えるフォーラム～過去から今、そして未来へ～にブースを出展・参加 (栗東市)
  - 12～13日 2025年度ILBM-PESSVAワークショップを開催 (マレーシア・クアラルンプール) **【イベント④】**
  
- **3月 10～11日** **H**JICA関西2025年度地域理解プログラムへの協力 (草津市／大津市／守山市)

**W**ウェブ **H**ハイブリッド (現地+ウェブ)

## イベント① ILEC国際ウェビナー

WLC20開催に先立ち、25か国約100名が参加した本ウェビナーでは、湖沼管理の最新知見が共有され、議論の基盤が築かれました。基調講演では、気候変動や非持続的な開発が世界の湖に深刻な影響を与えている現状と、湖沼を国際政策に位置づける重要性が示されました。技術セッションでは、将来の水不足リスク、世界的なデータ不足と市民科学、流域ガバナンス、琵琶湖・タナ湖の生態系変化など、多様な知見が紹介され、WLC20の討議をより深める土台となりました。



## イベント② 第6回びわ湖まるっと親子セミナー (近畿ろうきん社会貢献プロジェクト・笑顔プラス)

共催：近畿労働金庫 認定NPO法人びわこ豊穰の郷  
協力：株式会社堀場アドバンステクノ

地域に根ざした環境教育の推進を目的に開催した本セミナーでは、WLC20の参加報告や清掃活動、交流会などを行いました。WLC20に参加した子どもたちの報告では、「現地で自分たちと同じように蛍の保全活動に取り組んでいるマレーシアの参加者と話せた」など、各国の参加者との交流に満足している様子がうかがえました。また、初めて本セミナーに参加した小さな子どもを持つ保護者からは、WLC20参加者の体験談を聞いた子どもが「自分もやってみたい」と自発的に地域活動への参加意欲を示したことを喜ぶ声が寄せられました。



## イベント③ インドネシアにおける湖沼水質改善のための技術協力

環境省委託事業「インドネシアにおける湖沼水質改善のための技術協力」を、いであ株式会社と共同で実施しました。5年目を迎え、本年度はインドネシア環境省から3名の研修員を招きました。研修では、インドネシアでの湖沼センター整備に向け、日本の湖沼環境専門機関の事例紹介、湖沼管理や生態系の評価に関する講義を実施しました。講義は、インドネシアの中央政府および州政府関係者約100人にもオンラインで配信し、具体的な施策展開について議論しました。



## イベント④ 「流域住民による生態系サービス 価値評価(PESSVA)」事業

独立行政法人環境再生保全機構の地球環境基金助成金事業として始動した本事業において、PESSVAの環境保全への貢献について議論するワークショップをマレーシアで開催しました。

ワークショップには住民や自治体、専門家、大学生等が参加し、クラン川流域におけるPESSVA調査の展開可能性や、過去3年間の調査結果をもとに、統合的湖沼流域管理(ILBM)やHeartware(人の想いや共感を重視し、行動につなげる環境保全の考え方)の概念を組み込んだ調査の開発について活発に議論が交わされました。



# 第15期ILEC科学委員会始動

2025年4月～2028年3月

新メンバーの4名に、📍活動拠点、🏛️専門分野、  
そして、その道に進んだきっかけや現在の活動に  
ついて聞いてみました。

## 新メンバーに



**Prof. Hillary Masundire**  
ヒラリー・マサンディア教授

サステナブル・クライメイト・  
ソリューションズ  
マネージングディレクター

📍 ジンバブエ/ボツワナ

🏛️ 生物学

私のキャリアの中で最も大きな転機となったのは、高校の生物教師として5年間働いた後、1985年にジンバブエ大学へ戻り湖沼学を学び始めた時期でした。奨学金を受け、世界最大の人造湖であるカリバ湖の生態系研究チームに参加しました。学部時代に水生生態学を紹介してくれたクリス・マガツァ教授の指導のもと、私は動物プランクトンと外来魚のタンガニーカ湖イワシ（Limnothrissa miodon）との相互作用に焦点を当てました。この種はジンバブエとザンビアの両国において主要な商業漁業の基盤となっており、私達の研究はその産業を支える生態学的関係を解明するのに貢献しました。カリバ湖で過ごした年月は私の科学者としての礎を築き、淡水生態系とその管理への情熱を強めました。またこの時期にマガツァ教授から ILEC の活動を紹介され、後の国際的な生態系管理への関与につながるきっかけとなりました。こうした経験を基に、私は国際自然保護連合・生態系管理委員会の創設メンバー兼国際委員長を務めるとともに、ミレニアム生態系評価（MA）における生物多様性分野の統括執筆責任者、さらに世界ダム委員会（WCD）の活動にも携わってきました。

これまで私は、イギリス東部のノーフォーク・ブローズにある浅い貧栄養湖、アフリカの大湖沼、そしてアイルランドのさまざまなタイプの湖に関わってきました。またその間には、アフリカの水草が広がる湿地、ボツワナの一時的に水が張る浅いマカディカディ塩湖、さらにケニアやタンザニアにあるごく小さなため池の調査も行ってきました。こうした経験を通じて、湖沼の多様な形や機能、そしてその生態系を守り、湖に依存して暮らす人々の生活を持続させることの大切さを学んできました。近年は、社会科学の分野にも足を踏み入れ、概念モデルの考え方や、湖沼生態学と公式／非公式な社会制度との関わりについて理解を深めています。これまでの歩みは常に新しい発見の連続であり、同時に、まだ知らないことが多いと気づかされる経験でもありました。この度、ILEC科学委員会に加わり、水上でもデスクワークでも、湖に関わるさらなる冒険ができることを楽しみにしています。



**Prof. Kenneth Irvine**

ケネス・アーヴァイン教授  
IHEデルフト水教育研究所  
水界生態系学名誉教授

📍 アイルランド/オランダ

🏛️ 水生生態学

本委員会は、湖沼管理の多様な分野の専門家が集まり、ILECの国際的な活動を支えています。第15期は、新たに4名のメンバーを迎え、11名体制でスタートしました。各委員の情報は二次元コードよりご覧になれます。



## インタビュー

私が湖に興味を持ち始めたのは、コンセプション大学で生物学を学んでいた頃です。湖沼学の授業で、まったく新しい世界が開けたことを今でも覚えています。野外調査に出かけ、ボートを漕ぎ、都市部の湖からサンプルを採取する作業が、正直なところ最も楽しかったのです。その頃、湖で発生し始めた富栄養化や藍藻類の異常増殖についても初めて知りました。私は、オスカル・パラ教授とクラスメートと共に、レドンダ湖で起きた大規模な魚の大量死の原因を解明するため、初めて昼夜をまたぐサンプリング調査に参加しました。その結果、チリの湖で初めて報告された「ミクロシスティス・アエロギノーサ」というシアノバクテリアの増殖が原因だと判明したのです。それから約40年が経った今、当時の地域レベルの懸念が、いまや世界的な課題へと広がっていることに改めて驚かされます。とくに人間の影響が強く及んだ多くの湖で、その問題が深刻になっているのです。



**Prof. Roberto Urrutia**  
ロベルト・ウルティア教授  
コンセプション大学  
環境科学部学部長

 チリ  
 湖沼学



**Dr. Melissa McCracken**  
メリッサ・マクラッケン博士  
タフツ大学フレッチャラー  
法律外交大学院  
国際環境政策助教授

 アメリカ  
 越境水資源協力

淡水は、人間を含むあらゆる生物に共通する、非常に特別でかけがえのない資源です。人間の文化や文明は、水を管理するために協力し合う必要性から発展してきました。この「水」と「協力」の重要性こそが、私が国境を越えて共有される地表水・地下水の研究に関心を持つようになったきっかけです。水は人間の資源であると同時に、物理的な自然資源でもあるため、多様な課題に取り組むには他分野にまたがるアプローチが欠かせません。私はこれまでの技術的・ガバナンスの背景を生かし、共有水資源をめぐる協力と対立に焦点を当てています。特に、対立を引き起こす要因は何か、また国家間がどのように公平かつ持続可能な形で国境を越える水資源を共有する協力プロセスを築けるのか、といった問いを探求しています。現在、私は「共有水資源研究所パートナーシップ」の共同ディレクターとして、水協力と水外交の推進に取り組んでいます。私たちは、オレゴン州立大学がホストする「越境淡水外交データベース」を運営し、世界各地の河川・湖沼流域における制度的能力を、実証データに基づいて分析・発信しています。



# WLC21は2027年タンザニアで開催：アフリカの湖沼がつなぐ新たな対話の場へ

今回の世界湖沼会議(WLC21)は、アフリカ東部のタンザニアで開催されます。アフリカでの開催は2005年のケニア以来2回目となります。タンザニアには、世界で2番目に大きな淡水湖であるビクトリア湖をはじめ、世界最長かつ2番目に深いタンガニーカ湖、固有種の宝庫であるマラウイ湖など、重要な越境湖沼が数多く存在します。これらの湖沼は飲料水、漁業、観光、発電、貿易など、多様な社会経済的利益を地域にもたらしています。現地ホストであるタンザニア水省の水研究所は、50年以上にわたり水分野の専門家育成に貢献してきた機関で、会議開催を機に湖沼管理の地域拠点センターの設立を目指しています。



ビスマルク・ロック、ビクトリア湖

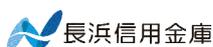
また、同国にはアフリカ最高峰キリマンジャロや豊かな野生動物で知られるセレンゲティ国立公園など、世界的に有名な自然も広がります。WLC21では持続可能な湖沼流域管理と気候変動に対する強靱性における水・環境政策課題などについて、世界各地の参加者が議論を深めます。アフリカの大湖沼が育んできた知恵と経験に触れられる貴重な機会となりますので、ぜひご参加ください。

## ご支援・ご協力ありがとうございます！ 2025年度

### ●賛助会員（法人）として会費をいただきました企業・団体様のご紹介（順不同）



### ●寄付をいただきました企業・団体様のご紹介（順不同）



## ILECサポーター（賛助会員・寄付）募集！

ご支援いただきました企業・団体様を当財団ウェブサイトおよびニュースレターにてご紹介いたします。詳細はウェブサイトをご覧ください。▶ <https://www.ilec.or.jp/support>



INTERNATIONAL LAKE ENVIRONMENT COMMITTEE FOUNDATION (ILEC)



〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 公益財団法人 国際湖沼環境委員会  
 ー 事務局 ー Tel: 077-568-4567 / Fax: 077-568-4568 / E-mail: infoilec@ilec.or.jp  
 Website: www.ilec.or.jp / Facebook: www.facebook.com/ilec.japanese

\*本ニュースレター最新号、バックナンバーは上記の当財団ホームページでもご覧いただけます。